



With

第3号

2021(令和3)年12月24日(金)発行

12月に入り、一気に雪景色が広がって、分校の子ども達は雪遊びやスキー学習を心待ちにしながら、元気いっぱい過ごしています。今年の冬はどんな楽しいことが待っているのでしょうか。

さて、去る11月26日(金)に、石別住民センターにて、地域の皆様を対象としたコミュニティ・スクール座談会を開催しました。町内会や地元中学校、おしま学園など関係者の皆様がお忙しい中参加して下さいました。また住民センターの管理人さんは事前に会場を暖めてくださるなど、ご配慮していただきました。おしま学園分校の教育活動を紹介したのち、参加者全員でおしま学園分校と地域の協働に関連して意見交流を行いました。今回は、その座談会の内容を報告します。

コミュニティ・スクール座談会 (地域の方々と一緒に)



以下のような話題で意見交流が行われました。

○地元の中学校は特認校であり、石別地区以外にも通学している。コロナ禍により行事の中止、変更を余儀なくされましたが、地域の方々のご協力により時期を変更し、ふれあい運動会は実施できました。

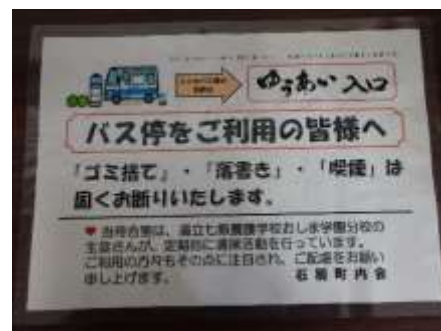
○ふれあい運動会に参加することを、おしま学園の子ども達はとても期待している。

○学童でも町内会でもボッチャに取り組んでおり、とても盛り上がる。分校と交流することができれば良いと考えていた。他にも「ふまねっと」にも取り組んでいる。

○町内会の課題は人口減少、高齢化、少子化である。町内会行事も縮小している。文化祭や運動会に、分校の子ども達や先生方も参加してもらえれば良いと思っている。町内会の行事の中で、分校と連携できると良いと考えている。キャンドル作り、餅つきはコロナ禍で実施できていない。

○北斗市花いっぱい運動、小中学校の子ども達も取り組んでいる。駅のプランターにマリーゴールドが植えられているが分校の子ども達も取り組むことが可能だろう。

○バス停清掃について、分校の子ども達が頑張っていることを看板を作ってPRしている。最近、新しく作り直した。(写真参照)

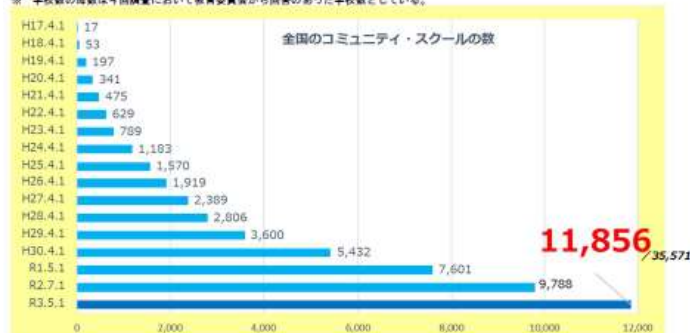


会の締めくくりには、「お互いに協力し合いやっていきましょう」という優しくそして力強いお言葉をいただきました。さらに会の終了後にも、米作りや和太鼓なども一緒に取り組みそうだというアイデアもいただき、地域の皆さんの温かい気持ちが伝わるあつという間の 1 時間でした。参加者の皆様、本当にありがとうございました！ 今後の分校の教育活動やコミュニティ・スクールに役立ててまいります。

令和 3 年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査について

文部科学省で実施されているコミュニティ・スクール(以下、CS)や地域学校協働活動の実施状況調査の結果が公表されました。CS は年々増加し、今年度は全国で 11,856 校になりました。北海道は全公立学校の 56.6%が導入しています。そのうち、特別支援学校は 25%の導入率となっています。北海道は全国的には上位に位置しています。京都府、和歌山県、鳥取県、広島県、山口県の特別支援学校は 100%の導入率となっています。特に、京都府や山口県の CS の取組は大変積極的であり、CS フォーラム等における事例発表が多く行われています。

※ コミュニティ・スクールとは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に基づき学校運営協議会を置く学校を指し、法第48条に基づかない自治体独自の取組については除いている。
※ 全国の公立学校とは、幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校、特別支援学校のこと。
※ 学校数の母数は今回調査において教育委員会から回答があった学校数としている。



【令和 3 年度地域と学校の連携推進協議会(道南)】(北海道教育委員会主催)に参加しました

令和 3 年 11 月 30 日(火)にコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、「地域学校協働活動」を充実させることを目的としてオンラインで開催されました。行政説明「CS と地域学校協働活動の一体的な推進について」、『大樹町と奥尻町の実践発表、パネルディスカッション』という大変充実した研修会でした。行政説明の中でお話されていたことをいくつか紹介します。

特別支援学校の特性と踏まえたコミュニティ・スクールの在り方について (中教審答申「学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」より)

学校運営協議会を通じて、地域住民や保護者等に加え医療、福祉等の代表の協力を得ることで、子ども達が自立し社会参加できる環境の充実を図ること

コロナ禍におけるコミュニティ・スクールの実践例 (北海道教育委員会令和 3 年 3 月発行「コミュニティ・スクールリーフレット」)

「道立高等学校が地域と連携し、コロナ感染予防を啓発した取組」

取組の概要

道立高等学校では、コミュニケーション能力の向上を目標に掲げ、学校運営協議会では生徒と地域住民が関わる機会を設定しています。コロナ禍にあっても、地域の関係機関との連携を円滑に進めることが出来た。

Point

- コロナ禍において、授業で生徒が地域住民に新型コロナウイルス感染症予防を呼びかけるポスターを制作
- 学校運営協議会では、生徒が作成したポスターを市内の施設に配布する方策について協議し、地域コーディネーターが地域の関係機関と連携を図り、ポスターの配布が実現
- ポスターを配布する際に、生徒が施設職員にポスター作成の目的や意図を説明したり、施設職員の意見を聴いたりすることにより、生徒のコミュニケーション能力が向上

コロナ禍においても、地域や関係機関と円滑に、効果的に連携を図るためコミュニティ・スクールの仕組みを日常的に活用することが大切です。

【高校生が地域の学校や施設にポスターを配布】

「コロナ禍における子どもたちの安全な学校生活に向けた学校運営協議会の取組」

取組の概要

コロナ禍であるからこそ学校と地域が情報を共有し、学校運営協議会を通じて話し合ったことを地域学校協働活動として取り組むなど連携、協働することが大切です。

Point

- コロナ禍において、地域住民として学校の教育活動の充実に向けて何ができるのかアイデアを出し合うため、会議の場を市を直轄し、体育館において学校運営協議会を開催
- コロナ禍でマスクが不足する中、学校運営協議会委員が市民や地域住民と連携・協力してマスクを作成し、小学校と保育園に寄贈したことにより、地域住民が学校の安全な環境づくりに貢献

【関係者を確保するために体育館で学校運営協議会を開催】

【学校運営協議会委員が地域住民に呼びかけマスク作り】

パネルディスカッションでは、特別支援学校からの参加者で意見交流をしました。関係者へのコミュニティ・スクールの理解促進や教育委員会とのより良い連携、コロナ禍における地域との協働活動について課題があり、一つずつ解決しながら進めていることがわかりました。今後も他地域や他校の取組についても参考にしながら、おしま学園分校のコミュニティ・スクールや地域との協働活動について推進してまいります。